

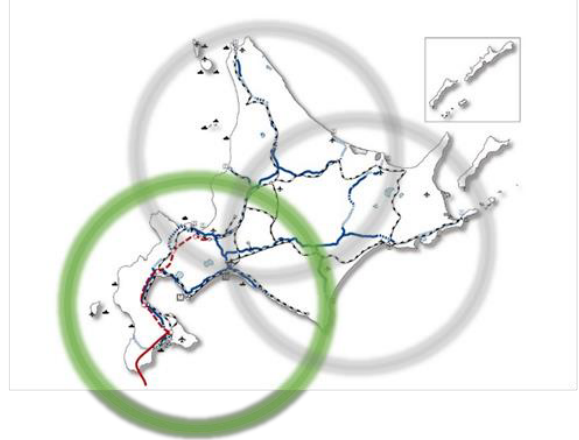
1 道民の暮らしや経済活動を支える公共交通ネットワーク ～道央・道南地域～

地域の現状・課題

札幌市や函館市などを中心に南北に広がる一定の地理的範囲を交通ネットワーク形成圏として捉える。

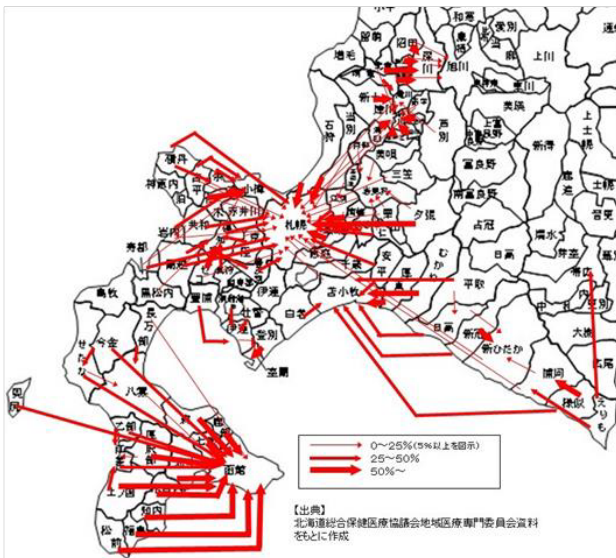
参考データ

エリア(道央・道南)の人口【国勢調査】
H27(2015) 3,812,745人(全道の70.8%)
エリアの宿泊客延べ数(うち訪日外国人来道者延べ数)
H28(2016) 約24,780千人(約5,112千人)

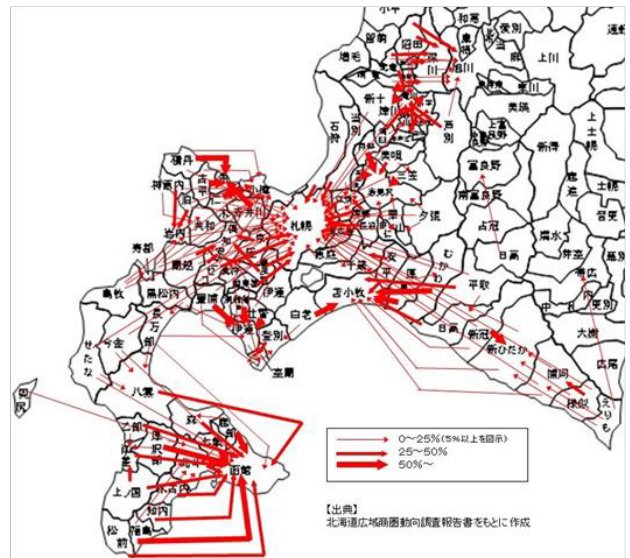


- 当地域は、中核都市である札幌市や函館市を中心に政治・経済、商工業、医療などの様々な機能が集積しているほか、新千歳空港や新函館北斗駅という北海道にとっての二大ゲートウェイに加え、室蘭港・苫小牧港という2つの国際拠点港湾により多くのヒトやモノが交流しており、また、多様な農林水産業、豊かな自然環境やアイヌ文化など多彩な地域資源が展開するなど、北海道全体の成長をリードする中核エリアとなっている。
- 医療面では、11の二次医療圏(札幌、後志、南空知、中空知、北空知、西胆振、東胆振、日高、南渡島、南檜山、北渡島・檜山)で構成され、各医療圏では、札幌市、小樽市、倶知安町、岩見沢市、砂川市、深川市、室蘭市、苫小牧市、新ひだか町、浦河町、函館市、江差町、八雲町といった都市に所在する医療機関への移動が見られる。
- 買物面では、札幌市、函館市など地域の中核となる都市を中心に広域商圏が形成されている。
- 観光面では、札幌市や小樽市、函館市などの都市部のほか、温泉や歴史、文化遺産、食といった多彩な資源を活用した誘客の取組が進められている。
- ビジネス面では、本社や支社が集中する札幌市と各都市との相互の移動が見られる。

<医療機関受療に伴う移動実態>



<買い物に伴う移動実態>



地域づくり の方向性

- ものづくり産業や食関連産業等の集積促進など、本道経済をリードする産業の活性化を進める。
- 農林水産物や加工品のブランド力強化、産業間連携の推進、担い手の育成確保など、地域の特色を活かした持続可能な農林水産業の展開を図る。
- 観光客の定着化を図るための取組推進や東北・北関東との交流促進など、北海道新幹線を活用した地域づくりを進める。
- 再生可能エネルギーの導入など、豊かな自然環境と調和した持続可能な社会の構築を進める。
- 地域における医療連携や救急医療体制の構築といった医療提供体制の充実など、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。
- 歴史や文化など地域資源の活用や広域観光の推進、スポーツ合宿誘致など、地域に根ざした観光・文化の振興、スポーツによる交流人口の拡大を図る。

交通の現状

■鉄道

北海道新幹線が東京～新函館北斗間を結ぶとともに、函館線、千歳線、室蘭線、札沼線及び日高線などが各都市を結んでいる。

道南いさりび鉄道が、五稜郭～木古内間を結んでいる。

■高規格幹線道路

北海道縦貫自動車道や北海道横断自動車道、函館・江差自動車道、日高自動車道などが各都市を結ぶ計画となっているが、未開通区間が多く残されており、地域内の開通率は約72%(平成29年末)。

■バス(都市間バス、路線バス)

本道の交通の拠点である札幌市と中核都市・中心都市が都市間バスネットワークで結ばれている。また、道央・道南の各地域内の中核都市と中心都市が生活交通路線として運行されている。

近年は、道央地域において外国人観光客の増加に対応し、バス事業者が共同で外国人観光客限定の乗り放題となる乗車バスを販売している。道南地域では新幹線駅や青函フェリーターミナルからの二次交通として路線バスが運行している。過疎地域の一部集落を対象にデマンド交通が導入されている。

■航空

新千歳、札幌丘珠、函館、奥尻の4つの空港があり、特に新千歳空港は道内各地域と首都圏をはじめとする国内の主要都市に加え、東アジアを中心とする国際線が就航する北海道のゲートウェイとなっており、今後、さらなる路線の就航・増便に向け、国際線ターミナルビルや国際線エプロンの拡張、誘導路の新設など施設の整備が進められている。

函館空港も奥尻線、3大都市圏との路線に加え、東アジアの国際線が就航している。

札幌丘珠空港は道内各地と三沢、静岡を結び、地域航空ネットワークの拠点となっている。

奥尻空港と函館空港を結ぶ路線は、住民の暮らしや観光を支える重要な交通手段となっている。

■船舶

室蘭港、苫小牧港の2つの国際拠点港湾並びに函館港、小樽港及び石狩湾新港の3つの重要港湾があり、この5港で道内港湾の取扱貨物量の約85%を占めている。また、函館港、小樽港は道内有数のクルーズ船の寄港地となっている。

江差港や瀬棚港と奥尻港を結ぶ離島航路は、地域の生活や地場産業を支えている重要な交通手段となっている。

■物流

国際航空貨物を扱う新千歳空港や、苫小牧港をはじめとする港湾に、中国・韓国との国際コンテナ航路や、本州とのフェリー航路など国内外との多くの航路を有しているほか、青函トンネルを経由する鉄道貨物により本道一本州間の輸送が行われているなど、本道における物流の中心となっている。

交通の
主な課題

■鉄道

石勝線（新夕張一夕張）、札沼線（北海道医療大学一新十津川）、室蘭線（沼ノ端一岩見沢）、留萌線（深川一留萌）、日高線（苫小牧一鶴川）、日高線（鶴川一様似）、根室線（滝川一富良野）は、「JR単独では維持することが困難な線区」と位置付けられており、交通体系のあり方に関する地域での検討・協議の加速化が必要。

道南いさりび鉄道は、経営計画により10年で23億円の公的負担が見込まれており、引き続き厳しい経営が予想されており、地域住民による日常的な利用の促進や観光客の利用拡大など収益拡大に向けた取組が必要。

北海道新幹線については、開業2年目を迎え、利用状況については、初年度より低くなっており、各種キャンペーンの実施による利用促進や青函共用走行区間等における高速化の早期実現が必要。

北海道新幹線新函館北斗・札幌間の開業後、函館本線の函館・小樽間がJR北海道から経営分離される。

■高規格幹線道路

札幌市と函館市が高規格幹線道路で結ばれていないほか、振興局等所在地である倶知安町、浦河町、江差町に到達していない。インバウンドをはじめ、観光客の円滑な移動を支え、大規模災害時の代替性を確保するためにも早期のネットワーク化が必要。

■バス

地域内の人口の減少によるバス事業者の厳しい路線状況に加え、労働力の減少による運転手不足がバス路線の運行に影響が出ることが懸念されており、地域が一体となった生活交通路線の確保に向けた取組が必要。

■航空

新千歳空港は、国際路線の拡大とともに利用者が急増しており、今後も更なる路線就航・増便が見込まれる中、受入体制の拡充が課題となっている。

北海道新幹線開業効果を波及させるため、函館と道東・道北地域を結ぶ路線就航が課題となっている。

札幌丘珠空港の利尻線や代替交通機関が限られる地域を結ぶ路線及び奥尻と函館を結ぶ路線は地域にとって不可欠な交通手段であり、長期的な路線維持に取り組む必要がある。

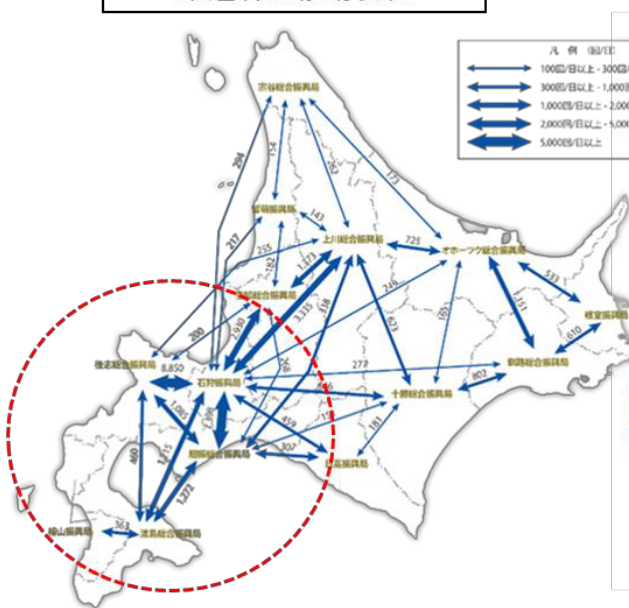
■船舶

船舶の大型化に対応した港湾機能の強化が必要となっている。また、地域経済の活性化や観光振興のため、クルーズ船の寄港促進に向けて取り組む必要がある。離島住民の生活や産業を支える離島航路の維持確保に向けた取組が必要となっている。

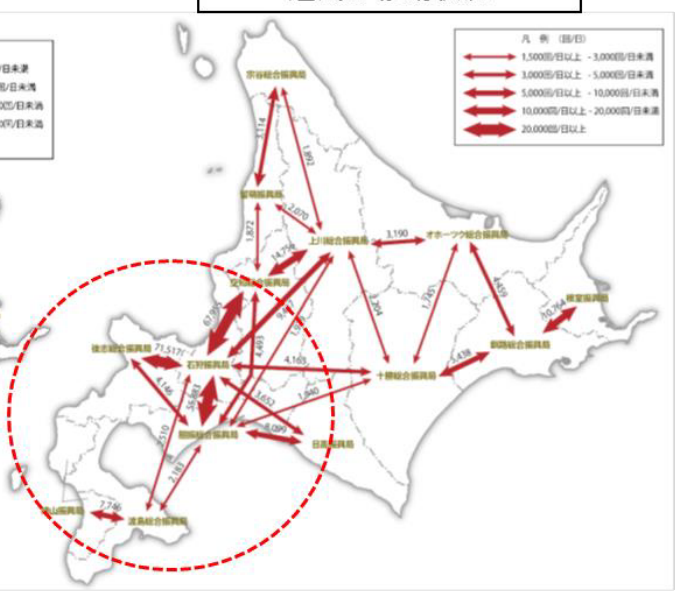
■物流

船舶の大型化への対応など、国際物流機能の強化とともに、道産食品など国際貨物の需要増加に対応した航空・海上ネットワークの充実・強化が求められている。また、安定的な輸送ネットワークの維持には、多様な輸送モードの確保が必要。

来道者の移動状況



道民の移動状況



1 交通ネットワークの方向性

当地域は、新千歳空港と新函館北斗駅という北海道にとっての二大ゲートウェイに加え、室蘭港・苫小牧港という2つの国際拠点港湾などが多くのヒトやモノの交流を促進しており、また、札幌と函館を結ぶ鉄道が地域内における高速移動の中心的な役割を果たしていることから、両都市間をつなぐ鉄道をはじめとする公共交通ネットワークの利便性向上を図るとともに、そうした交通結節点から各地を結ぶアクセス交通の整備を進めていくことが必要。

<インバウンドへの対応>

道外からの来道者は、新千歳や函館、丘珠空港へと直接乗り入れているほか、北東北圏や首都圏などから新幹線を利用して道南圏への流動も見られ、これらの交通結節点から主要都市や観光地等へとスムーズに移動・周遊ができるよう、快速エアポートの増便や空港からの連絡バスの充実をはじめ、ネットワークの拡充や乗継の利便性向上、情報提供の充実などを進める。

<地域住民の円滑な移動の確保>

通勤や通院、買い物など、日々の暮らしにおいて自家用車を利用する場面が増えているが、今後、高齢化が進む中、自ら運転ができない方の増加が見込まれるなど、公共交通の重要性が高まっており、地域において公共交通利用について意識醸成を図るほか、通学や通院など日常生活を支える生活交通の維持・確保や、地域の公共交通の利用実態に応じた交通モードの検討を進める。

2 各交通モードの方向性

■鉄道

今後、鉄道ネットワークワーキングチーム・フォローアップ会議において、集中審議の上、記載。

■高規格幹線道路

高規格幹線道路は、地域間の交流拡大や物流の効率化、周遊観光の振興、救急搬送時間の短縮、災害時における代替性の確保など、道民生活や経済活動を支える重要な交通インフラであることから、早期のネットワーク形成に向け、地元自治体や関係団体と連携し、整備促進の取組を進める。

■バス

バス事業者と地域が連携・協力のもと、バスの利用促進や運転手確保の取組を実施するとともに、本道の交通の拠点である札幌市と他の地域を結ぶ路線の確保のほか、駅や空港、バスターミナルなどからの二次交通の充実を図るなど、通学、通院などに欠かすことのできない生活交通路線の確保に向けた取組を進める。なお、人口減少などの地域の実情を踏まえ、関係者の合意形成のもと、バス路線の一部をデマンド交通へ移行するなど効率的・効果的な公共交通の確保を推進する。

■航空

新千歳空港については、道内7空港の一括民間委託の効果を活かしながら、CIQ体制の整備、24時間運用の推進など国際拠点空港化を進めるとともに、民間委託を選択しない道内6空港と連携し、道内航空ネットワーク全体の充実・強化に取り組む。

北海道新幹線の開業効果のさらなる波及拡大に向け、函館と道東・道北地域を結ぶ路線の就航をめざす。札幌丘珠空港からの道内路線の維持・拡充に向け、利用促進に取り組む。

奥尻と函館を結ぶ路線については、住民割引運賃の継続や閑散期の観光需要の底上げなどにより、利用者数の増加を図る。

■船舶

国際競争力の強化や物流機能の効率化を図るため、船舶の大型化に対応した岸壁や荷役機械の整備など港湾機能の強化を推進する。大型クルーズ船受入岸壁などの整備や誘致活動を進めるほか、他の交通モードと連携したクルーズ船の寄港促進を進める。地域と連携しながら、離島航路の維持確保に向けた取組を進める。

■物流

国際物流の動向に対応した空港・港湾などのインフラの機能強化や国際航路・航空路の充実・強化を進めるほか、本道産業の国際競争力強化に向けて、物流関連施設等の集積を図る。